

はしがき

本書は、国際物品売買契約に関する国際連合条約(ウィーン売買条約とか、CISG [United Nations Convention on Contracts for the International Sale of Goods の頭文字をまとめたものである]ともいわれる。以下では同条約を「CISG」という。)の基本的な枠組みと内容を解説したものである。

CISGは、1980年4月11日に、ウィーンでの国連総会第6回特別会期において採択され、「異なる社会的、経済的及び法的な制度を考慮した国際物品売買契約を規律する統一的準則」として位置づけられている(1988年1月1日発効)。わが国でも、CISG加入をめざした検討が各方面で重ねられ、条約採択から30年近くを経た2008年7月1日に、ようやく加入書を国連事務総長に寄託した。これによって、CISGは、2009年8月1日より、わが国においても発効するに至った(CISG99条2項参照)。

この間、わが国でも、CISGについて、数多くの体系書、解説書、注釈書が刊行されてきた。CISGが対象とする個々の問題を扱った論文もまた、数多く公表されてきた。主として専門的実務家を読者対象とした解説書にも、優れた内容のものが少なくない。他方で、学生(とりわけ、法学部学生・法科大学院生)に対してCISGの基本的な枠組みや内容を教育するための教科書はほとんど見あたらない。また、CISGについて新たに総合的・概括的な知見を得ようとする実務家(とりわけ、弁護士や企業法務担当者)に対してCISGの基本的な枠組みや内容を提示する書物は、意外なほど少ない。しかし、CISGがわが国においても発効した今、その重要性に鑑みると、この種の性質をそなえた導入型教科書(しかも、1980年の採択後30年の推移を踏まえたもの)が必要であることは衆目の一致するところであろう。こうした書物を刊行することは、教育面でも、実務面でも、大きな意味をもつことになろう。

本書は、このような企図のもとで計画され、CISGを専門的研究分野として研究論文・著書等を発表されている方々の協力を得て、刊行に至ったものであ

る。本書は、CISGの基本的な枠組みや内容を提示することを目的として執筆されている。しかしながら、読者の皆さんには、それにとどまらず、本書の内容をふまえたより詳しい体系書・注釈書・論文、さらには、定評のある外国文献（これについては本書の性格を考慮して引用を避けた）にあたってくださいことを期待している。そうしてもらえれば、CISGについての理解もいっそう深まるであろう。

今日のわが国において、CISGを《識る》ことは、次の2つの意味をもつ。第1は、CISGがわが国で発効した今、国際売買契約において契約書等に特別の定めを置かない場合にはCISGの規律が適用されるという意味において、売買に関する《国際的取引ルール》を理解する上で不可欠となることである。第2に、CISGの規律の中には、現代社会における民法・商法の基本ルールを踏まえて立案されたものが少なくないため、国内の契約をも対象とした民事実体法である《契約法・売買法の現代化》を考える際の思考道具を手にするにもつながる。これらの意味において、CISGを《識る》ために本書が活用されれば、編者としては望外の喜びである。

本書は、私たち3名による監修のもと、ヨーロッパ契約法原則の第1部から第3部までの翻訳・刊行を終えた後に、CISG加入への動きをにらみながら企画・立案し、日ごろからヨーロッパ民法・ユニドロワ国際商事契約原則・CISG等について共同研究をしているメンバーに呼びかけ、2年余りの準備作業を経て完成したものである。法科大学院・法学部での教育等に忙殺される中で、ご自身の研究と併行して作業を進めていただいた執筆者各位には、厚く御礼申し上げます。なお、索引の作成については、坂口甲講師（神戸市外国語大学）にお願いした。ここに感謝を申し上げます。また、この間、法律文化社の小西英央さん、加藤彩代さんには、この種の書物に特有の手間のかかる作業をお願いすることとなった。この時期に本書を刊行できたのも、ひとえにお2人のお力添えの賜物である。

末尾ながら、CISGについての最新情報は、インターネット上のサイトを通じて入手可能であることを紹介しておきたい。「はしがき」執筆時（2010年2月26日）現在、曾野裕夫教授（北海道大学）が運営されているサイト（CISG-Japan

Database, <http://www.juris.hokudai.ac.jp/~sono/cisg/index.htm>) や、そこでリンクが張られているデータベースサイト(たとえば、CLOUT, UNILEX, Pace CISG Database, CISG-Online など) が有用である。こうした情報もぜひ活用していただきたい。

2010年4月

潮見 佳男
中田 邦博
松岡 久和